



2015 年度
第 6 回映画英語学ワークショップ
大会プログラム

日時： 平成 27 年 6 月 27 日 (土)
12:25~17:30
(受付開始： **12:00**)

会場： 京都外国語大学
1 号館 7 階小ホール
受付： 1 号館 7 階会場入口

シンポジウムテーマ

「語法」で読み解く映画の英語

主催：映画英語教育学会 (ATEM) 西日本支部
共催：京都外国語大学メビウス研究会
後援：映画英語教育学会 (ATEM)

大会プログラム

12:25-12:28 開会挨拶

横山 仁視 (ATEM 西日本支部支部長)

シンポジウム

12:30-14:00

テーマ：「語法」で読み解く映画の英語

1. 「when it comes to A の用法をめぐって」 横山 仁視 (京都女子大学)
2. 「映画でわかる法助動詞 be bound to」 衛藤 圭一 (京都外国語大学・非)
3. 「特異な why と what の語法で考える疑問副詞/代名詞の境界線」
飯田 泰弘 (大阪大学・院生)

司会：北本 晃治 (帝塚山大学)

フレッシュ！院生コーナー

14:10-14:37

「映画の実例からみる名詞転換動詞の意味制約」

司会：藤枝 善之 (京都外国語大学)

須堯 皓平 (京都外国語大学・院生)

14:40-15:07

「副詞的 when 節と主節の時間的關係」

北野 晴香 (立命館大学・院生)

15:10-15:37

「複合体結果構文について」

司会：井村 誠 (大阪工業大学)

真鍋 悠 (立命館大学・院生)

15:40-16:07

「英語学習における語彙使用と使用域 — 映画と話し言葉と書き言葉の違いから—」

木山 直毅 (大阪大学・院生)

研究発表

16:15-16:45

「Stand By Meにおける it のチャンクの用例に関する考察」

司会：小野 隆啓 (京都外国語大学)

仲川 浩世 (関西外国語大学)

16:50-17:30

「映画で学ぶ口語英文法：ハリデイの機能文法理論に基づく語彙密度と文法的錯綜性」

小林 敏彦 (小樽商科大学・大学院)

17:30-17:33

閉会挨拶

藤本 幸治 (京都外国語大学メビウス研究会代表幹事)

18:00-20:00

支部交流会

於：「居酒屋 楽家楽家」 (京都外国語大学前)

研究発表概要

● 「when it comes to A の用法をめぐって」

横山 仁視 (京都女子大学)

コミュニケーション活動を円滑に行い成立させるうえで欠かせない英語運用能力の一つに談話辞があり、英語学習者がその用法について戸惑うことも少なくない。

本発表では、談話辞"when it comes to A"の用法を、その類似表現である"speaking of A"と次の観点から比較分析することで、その対話の構造とコミュニケーション上の効果を考える。(1)英和辞典の記述、(2)英英辞典の記述、(3)映画英語の用例、(4)ATEM 関西支部映画英語字幕データベース (Ver.3, 2009)、(5)COCA、(6)インフォーマント資料。

- (1) When it comes to the topic of obesity, many people are quick to point the finger at various foods and food companies. (*Super Size Me*, 2004)
- (2) I know I'm a better lawyer when it comes to divorce. (*The War of the Roses*, 1989)
- (3) Speaking of marriage, Chuck, when are you gonna make an honest woman out of Kelly here? (*Cast Away*, 2002)
- (4) I'm working hard for the money. Speaking of which, you hand in your application? Management? (*Maid in Manhattan*, 2002)

● 「映画でわかる法助動詞 be bound to」

衛藤 圭一 (京都外国語大学・非)

従来の文法書や語法書では法助動詞の be bound to は類義語の must よりも強い「義務」の意味を表すと記述されることが多い。しかし、次の2例が示すように be bound to には、1. must と異なり「不可避性」の解釈がある、2. 直後には否定的な解釈を持つ表現が現れやすい、という2つの特徴が認められる。

- (1) Once word gets out that this bomb has gone off, there's bound to be a certain amount of civil unrest. (24, Season 2, Episode 15, 2003)
- (2) Conklin had these guys wound so tight they were bound to snap. (*The Bourne Supremacy*, 2004)

そこで、本発表では意味論及び語用論の立場から be bound to を考察し、まず同表現の語法のポイントが語源にあること、また、語源に注目することで上述の不可避性が生じる理屈が容易に理解できることを指摘する。この点を踏まえた上で、本発表では映画の使用例を観察することで他にも語法のポイントが見えてくることを主張したい。

● 「特異な why と what の語法で考える疑問副詞/代名詞の境界線」 飯田 泰弘 (大阪大学大学院・院生)

本発表では、英語の what と why に関する2つの特殊な語法を取り上げる。第一に、動詞 care と疑問代名詞 what が共起する What do you care about dying? (*Supernatural*, Season 1, Episode 19, 2009) のような文では、what が置き換わる前の名詞句は存在せず、what は why に似た解釈を持つことになる。第二に、Tom ate Sushi in Kyoto yesterday. という文に対し、Why Sushi? という文は作れても、他の疑問副詞を使った *When Sushi? や *Where Sushi? は許されない。本発表ではこのような現象を映画の実例を使って観察しながら、一般的な英語学習本で紹介されている疑問代名詞と疑問副詞の分類法を再考察する。

● 「映画の実例からみる名詞転換動詞の意味制約」

須堯 皓平 (京都外国語大学・院生)

英語には名詞から動詞へと転換された名詞転換動詞 (Denominal Verb) が存在する。映画にも Her driver just

text-messaged, and her facialist raptured the disk. (*The Devil wears on Prada*, 2006) のように広くみられ創造性に富む現象である。しかし英語の母語話者たちは無制限に名詞転換動詞を創り出しているのではなく、何らかの制約に基づいて創造している。

Kiparsky (1997) に代表される意味論的制約によれば、名詞転換動詞の意味は本来の名詞が指示する物の標準的用途を反映していると主張する。上の text message の例からも「メールを送る」という主要な用途が反映されている。一方で、We were stoned and bottled by the spectators as we marched down the street. (Clark & Clark: 1979) では bottle の「びんに物を詰める」という標準的用途が反映されていないことが理解できる。ここでは文脈に依存して bottle の解釈が得られる。したがって、Kiparsky の制約はデフォルト的解釈であり、それが文脈的(統語的) 要因から容易に書き換えられることを示唆する。

本発表では、Kiparsky (1997) の制約が文脈的要因によって書き換えられる点を映画の実例を通して検討する。

● 「副詞的 when 節と主節の時間的關係」

北野 晴香 (立命館大学・院生)

副詞的 when 節とその主節が同一時制である場合、この2つの間には、①一方の節の事態が他方の節の事態を時間的に包含する場合(例: I was found wandering around when I was eight years old. (*Anastasia* : 1997)、②一方の事態の後にもう一方の事態が生起する場合(例: When he was discovered, he was killed by the other side. (*Charlie's Angels*, 2000) の時間關係が存在する。発表ではこれらの時間關係の例を映画によって示し、これらの解釈の違いを主にアスペクトの観点から述べる。また②の場合において、時間的に先行するのは普通 when 節の事態であるが、例外的に主節内の事態が when 節の事態に先行する、という解釈が可能であるような場合が存在する(例: When they built the fifth bridge, they took several bids. (Ritchie : 1979)。このような例について、実際に主節の事態が when 節の事態に先行しているといえるのか議論する。

● 「複合体結果構文について」

真鍋 悠 (立命館大学・院生)

本発表では、結果構文中の本動詞と結果述語がどのような場合に複合ができるか意味論の視点から考察する。複合体の例として以下のような例が挙げられる。“John wiped clean the floor.” “George pounded soft the meal.” 前者の場合は、動詞の表わす動作の目的が動詞の意味の中に指定されているが、後者の場合は、動作の目的は指定されていない。さらに以下のような例も存在する。“*John hammered flat the metal.” “*She shook awake her husband.” これらの例は、pound soft の例と同じように対象への働きかけのみを表わす動詞が用いられていて、動作の目的が指定されていないという共通した性質を持っている。にもかかわらず、これらの例では複合体の容認度に差が見られる。同じタイプの動詞が用いられているはずなのに pound の場合は複合ができ、hammer や shake の場合は不可能なのである。本発表では、映画において実際に用いられている複合体の実例、例えば wipe clean の場合は、*Natural Born Killer* (1994)における Today they wipe clean your minds because they feel you're dangerous. に見られるが、このような動詞と結果述語の複合体がどういう場合に形成できるのかを考察するのを目的とする。

● 「英語学習における語彙使用と使用域 — 映画と話し言葉と書き言葉の違いから—」

木山 直毅 (大阪大学・院生)

本発表では、映画の話し言葉、対面式の話し言葉、書き言葉の違いを語彙的に検証し、外国語学習における使用域の違いを認識することの重要性を論じる。

一般に映画を用いた学習は近年注目されている。その裏付けとして、外国語大学には膨大な数の海外ドラマや映画のDVDが設置されている。映画を用いた学習として、聞き取った内容を書き取ったり(黒坂: 2004)、実際に話す練習をしてみたりすることが効果的であるとされる(小林: 2015)。しかし、映画の英語は誰かが書いた英語を俳優や女優が「しゃべっている」ため、話し言葉とは決定的に異なる。そこで本研究は、話し言葉、書き言葉、映画スクリプトコーパスを計量的に比較し、話し言葉は動詞中心、書き言葉は名詞中心である(cf. Biber et.al :

1998) ことを議論し、映画を用いた英語学習に注意すべき事項を語彙使用の観点から議論する。

●「Stand By Meにおける it のチャンクの用例に関する考察」

仲川 浩世 (関西外国語大学)

本研究は、代名詞 it のチャンクの用例に焦点を絞り、映画 *Stand By Me* におけるその意味と用法を検証したものである。*Stand By Me* には it が 204 例登場する。『Longman Dictionary of Contemporary English 第 6 版』によれば、it に関して 13 の語義が明記されているが、本研究においては、以下の 1 から 5 までの語義に絞って it を分類した。

1. 前方照応の it、
2. 状況の it、
3. 形式主語、形式目的語の it、
4. 天候、時間、距離の it、
5. 強調構文に用いられる it

特に2の状況を表す it における 10 種類のチャンク例 (Forget it. Stop it. Move it. Goddam it. Cut it out. Go for it. Cool it. Hold it. That's it. Get it.) を取り上げ、意味と発音の特徴などについて検討する。さらに、映画を用いたチャンクの指導法についても考察する。

●「映画で学ぶ口語英文法：ハリデイの機能文法理論に基づく語彙密度と文法的錯綜性」

小林 敏彦 (小樽商科大学・大学院)

口頭の会話だけでなく、私的メールや SNS の急激な普及で、英語を話すように早く書く機会やそれらを目にする機会が増大し、電腦空間では独自の単語の綴りや語彙、構文が独自の進化を続けている。文語体と口語体の相違点は、過去に多くの著名な言語学者によって特定されてきているが、英語学習者だけでなく、現場の英語教師や教科書の執筆者の間にもその知識の共有が十分されていない状況を鑑み、口語英語の特徴を体系的にまとめたツールの必要性を感じ、口語独自の語彙、構文、談話レベルの規則性を類型化した口語英文法類型フレームワーク (小林、2015 年一部用語改訂) が考案された。本発表では、このフレームワークの誕生の起点となった、文語体と口語体の相違点を語彙密度と文法的錯綜性にあるとするハリデイの機能文法理論の一部を紹介し、特定の洋画シーンを提示して口語英文法を概説し、洋画を活用したその教授法と学習法を紹介する。

会場校キャンパスマップ



大会会場 (1号館 7階 171 小ホール)

会場校へのアクセス

所在地

〒615-8558 京都市右京区西院笠目町 6

TEL : 075-322-6012



- 阪急電車「西院駅」から、西へ徒歩約 15 分
 または、「西大路四条（西院）」から市バス 3・8・28・29・67・69・71 に乗車、「京都外大前」で下車（乗車時間約 5 分）
- JR「京都駅」
 烏丸口から、市バス 28 に乗車、「京都外大前」で下車（乗車時間約 30 分）
 または、京都バス 81・83 に乗車、「京都外大前」で下車（乗車時間約 30 分）
 八条口から、市バス 71 に乗車、「京都外大前」で下車（乗車時間約 30 分）
- 地下鉄東西線「太秦天神川駅」から、南へ徒歩約 13 分

これまでの ATEM 西日本支部大会シンポジウムテーマ

【支部大会】

2002 年 9 月 14 日	映画英語教育学会関西支部設立決起大会開催（於：京都外国語大学）
2003 年 9 月 14 日	映画英語教育学会関西支部 第 1 回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「怪物映画に学ぶドラキュラ vs フランケンシュタイン Vs スパイダーマン」
2004 年 6 月 26 日	映画英語教育学会関西支部 第 2 回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「"Working Girl" 徹底活用法」
2005 年 9 月 18 日	映画英語教育学会関西支部 第 3 回大会開催（於：京都女子大学） ●シンポジウム：「"DAVE" 徹底活用法」
2006 年 10 月 21 日	映画英語教育学会関西支部 第 4 回大会開催（於：大阪工業大学） ●シンポジウム：「"I am Sam" 徹底活用法」

2007年10月20日	映画英語教育学会関西支部 第5回大会開催（於：摂南大学） ●シンポジウム：「"The Devil Wears Prada" 徹底活用法」
2008年10月18日	映画英語教育学会関西支部 第6回大会開催（於：京都ノートルダム女子大学） ●シンポジウム：「"Anne of Green Gables" 徹底活用法」
2009年09月26日	映画英語教育学会関西支部 第7回大会開催（於：帝塚山大学） ●シンポジウム：「"LITTLE MISS SUNSHINE" 徹底活用法」
2010年09月25日	映画英語教育学会関西支部 第8回大会開催（於：近畿大学） ●シンポジウム：「"SHANE" 徹底活用法」
2011年10月08日	映画英語教育学会関西支部 第9回大会開催（於：京都女子大学） ●シンポジウム：「"Twelve Angry Men" 徹底活用法」
2012年11月25日	映画英語教育学会西日本支部 第10回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「"The King's Speech" 徹底活用法」
2013年11月23日	映画英語教育学会関西支部 第11回大会開催（於：広島国際大学広島校） ●シンポジウム：「"Gung Ho" 徹底活用法」
2014年11月08日	映画英語教育学会西日本支部 第12回大会開催 （於：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス） ●シンポジウム：「"Invictus" 徹底活用法」

【映画英語学ワークショップ】

2009年5月9日	映画英文法ワークショップ 第1回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「英語の時制表現に関する一考察」
2010年5月8日	映画英文法ワークショップ 第2回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「認知言語学で読み解く映画の英語 一中・高・大の授業の活性化をめざして」
2011年5月14日	映画英語学ワークショップ 第3回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「語用論で読み解く映画の英語」
2013年6月01日	映画英語学ワークショップ 第4回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「音声で読み解く映画の英語」
2014年6月21日	映画英語学ワークショップ 第6回大会開催（於：京都外国語大学） ●シンポジウム：「統語論で読み解く映画の英語」

※第3回大会よりワークショップ名を変更

お知らせ

【大会参加費は無料です】

会員・非会員とも大会参加費は無料です。
どなたでも自由に参加できます。ご来場をお待ちしています。

【学内昼食場所】

学内カフェテリアを利用できます。会場の東隣りには「京都ファミリー」が、会場周辺にはコンビニ等がありますので、ご利用ください。

【交流会参加費について】

参加費は大会受付にてお支払いください。会員諸氏との交流および発表者との意見交換の場として是非ご参加ください。会場は、会場校前の「居酒屋 楽家楽家」です。
参加費 4,000 円です。学生は 1,000 円の補助があります。

【映画英語教育学会（ATEM）オンライン入会について】

新規入会をお考えの方はオンライン入会申し込みが可能です。受付横にパソコンを 2 台設置します。是非この機会に新規入会をお願いします。

新規入会方法について

入会申し込みは、本部 HP (<http://atem.org/nyuukai/>) の

「新規入会」から、手続きをお願いします

申込先： 映画英語教育学会 事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-3-12 アルク高田馬場 4F

株式会社 広真アド内

TEL: 03-3365-0182 FAX: 03-3360-6364

E-mail: office@atem.org

http://atem.org/nyuukai/

HOME 新規入会 会費納入方法 会員専用ページ

新規入会

※賛助会員のご入会はこちらのフォームは対応しておりません。賛助会員として入会をご希望の方は恐れ入りますがメールにてご連絡ください。

※下記に記入の個人情報は当学会の個人情報保護方針に従い利用いたします。入会手続きの前にご一読ください。

※灰色の項目は必須となっています。なお、記入内容は暗号処理されて送信が行われます。

※個人会員の年会費は5,000円となっております。お支払がまだお済みでない方には、Webでの入会手続きの後、「会費の振り込み方法」のページを参考に入金をお願い致します。入金確認後、正式登録となります。

15:10 2015/06/18

(協賛)

英字新聞だから身につく 世界の視点、確かな英語力

The Japan Times ST

週刊英語学習紙

お勧めポイント

- 最新の英文素材で学習
- 初級者にも安心のサポート
- エクササイズの充実
- グローバルな視野

1 週間の国内外のニュースから映画、スターの話題、海外レポート、英会話、英文ライティングまでバラエティ豊かなコラムが満載。すべての英文には日本語の注釈または対訳がついているため、辞書を引く手間も省けます。週に1度だからビギナーの方でも無理なく読み続けられます。

毎週金曜日発行 タブロイド判 24～32ページ

英語学習 まずはここから

辞書を引きながらゆっくり読むほどの時間もない。かと言って辞書がないと分からない…。そんな悩みを解消するのが、英語学習紙 The Japan Times ST です。

The Japan Times ST には、英字新聞 The Japan Times からピックアップした記事が、短すぎず長すぎないボリュームになって掲載。覚えておきたい重要な単語・表現には日本語の注釈・単語訳つきなので、辞書を引く手間を省きながらしっかり押えるべきポイントを押えられます。

国内外の政治経済、映画スターやスポーツ選手ら有名人の話題、エッセイなどジャンルも様々。まずは興味がある話題から読んでみましょう。

楽しく気軽に 本格的な英語を学びたい方に

英語を勉強するからには、それを何らかの形で活かしたい場があるはず。The Japan Times STにはそうしたニーズにお応えできる実践的なコンテンツがあります。

全体のおよそ半分は英語学習のためのページ。TOEIC対策、各界の英語のプロが書く多様なコラム、最新映画のセリフから学ぶ日常英語、クロスワードパズル、英語雑学、etc...幅広い角度から英語学習をサポート。学生や社会人、主婦やご年配の方など幅広い方々に読まれています。

楽しく気軽に・本格的な英語を学びたい方におすすめの英語学習紙、The Japan Times ST。ぜひ一度お試しください。

(<http://club.japantimes.co.jp/st/> より)

ATEM Nishinohon

<http://www.atem.org/kansai/index.html>

映画英語教育学会 (ATEM) 西日本支部

事務局：大阪工業大学・井村 誠 研究室内

m-imura@ip.oit.ac.jp